

サイ・テック 知と技の発信

【184】

埼玉大学・理工学研究の現場

■情報は不可欠な資産
 社会の高度情報化に伴って、現在、いかなる政府機関、社会組織へ企業、学校にとっても、情報が必要不可欠な資産となっており、情報資産の適切な管理は、国民生活の安全・安心の確保にとても重要です。

また、インターネットと通信ネットワークの発展により、現実、さまざまな情報資産に対するアクセスと共有も世界的な規模と範囲になっている。一方、



ちえん・じんで
 1982年中国・清華大学大学院修了。89年九州大学大学院工学部助手、九州大学大学院システム科学研究科教授を経て、99年から専門はソフトウェア工学、知識工学、情報セキュリティと情報理論の応用。

埼玉経済

情報セキュリティ工学環境

程 京徳 大学院理工学研究科 教授

状況になってきた。
 また、いかなる組織においても、脅威に対して適切な管理を実施して、組織における全体的な情報セキュリティを確保するためには、情報セキュリティマネジメントシステムの構築と運用も必須事項となってきた。

ソフトウェア工学環境により提供されている技法とツールは、システムの信頼性の確保を目的としており、情報セキュリティ工学の観点から見ると、高安全性を確保することによって不十分である。

我々は、この事実を指摘したうえで、情報セキュリティ工学環境という新しい概念を提案した。情報セキュリティ工学環境とは、情報システムにおけるセキュリティ機能の要求分析から、設計、開発、認証、運用、保守、廃棄までの全ての作業、および情報セキュリティマネジメントシステムの準備から、計画、認証、導入・運用、監視・見直し、維持・改善、廃棄までの全ての作業を、一貫性および継続性の観点から支援する技法とツールを統合する工学環境である。

まず、ISSEの中核的なコンポーネントである、さまざまなISO/IEC国際規格および関連文書を格納する情報セキュリティデータベースシステムISEDS (Information Security Database System) を開発した。ISEDSは世界最初の情報セキュリティデータベースシステムであり、ISEEは世界最初の情報セキュリティ工学環境である。

ISEEとISEDSを利用すれば、ISO/IEC国際規格に基づいて、情報システムの全体セキュリティを一定以上のレベル(すなわち、ISO/IEC国際規格に規定されたレベル)までに保つことに関連するすべての業務を支援することができる。

■規格群を共同策定
 国際標準化機構 (ISO) と国際電気標準会議 (IEC) は、情報セキュリティの観点から、情報技術に関連した製品およびシステムが適切に設計され、その設計が正しく実装されていることを評価するために、ISO/IEC 15408 という情報セキュリティ規格を共同で策定し、また、情報セキュリティマネジメントシステムのベストプラクティスを提供するために、ISO/IEC 27000 シリーズという情報セキュリティ規格群を共同で策定した。

■技法とツールを統合
 情報システムの攻撃者は、常に、次々と新たな攻撃方法を編み出し、システムの最も弱いところを狙って攻撃する。従来の

■ISSEとISEDS
 我々は、ISO/IEC国際規格に基づく情報セキュリティ工学環境 ISSE (Information Security Engineering) を支援することができる。

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せ下さい
 TEL 048・795・9161 FAX 048・653・9040